

令和元年度

事業報告書

社会福祉法人きすき福祉会
特別養護老人ホームさくら苑
特別養護老人ホームさくら苑さくらんぼの家
短期入所施設特別養護老人ホームさくら苑
木次町デイサービスセンター
木次居宅介護支援事業所
小規模多機能型居宅介護事業所桜花

I. 経過

年月日	事業内容
平成31年4月1日	職員定期人事異動・新規採用職員辞令交付
令和元年5月16日	監事による平成30年度会計監査
5月30日	第1回理事会 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度事業報告及び決算の承認について ・次期役員候補者について ・評議員候補者の選任について ・定款の変更について ・令和元年度資金収支補正予算（案）について ・評議員会の招集について ・報告事項 ほか
6月5日	評議員選任・解任委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・評議員の選任（補充）について
6月14日	雲南市社会福祉法人連絡会
6月20日	定時評議員会 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度事業報告について ・平成30年度計算書類及び財産目録の承認について ・次期役員の選任について ・定款の変更について ・令和元年度資金収支補正予算について
6月20日	第2回理事会 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長の選任について ほか
6月21日	雲南地域同和問題企業等連絡協議会総会・研修会
6月26日	夜間火災想定避難訓練
7月4日	令和元年度社会福祉法人指導監査説明会・研修会（出雲市）
7月8日	島根県社会福祉法人経営者協議会総会・研修会（松江市）
7月12日	島根県老人福祉施設協議会総会・研修会（松江市）
8月2日	雲南市社会福祉法人連絡会総会 身近でなんでも相談窓口ネットワーク事業開始式
8月29日	社会福祉法人経営管理研修（松江市）
9月24日	理事会（みなし決議による） <ul style="list-style-type: none"> ・運営規程・管理規則等の一部改正について
9月24日	社会福祉施設安全管理講習会（松江市）
9月30日	高齢者福祉サービス経営セミナー（出雲市）
10月15日	福祉サービス苦情解決研修会（松江市）
10月23日	外国人技能実習・特定技能活用セミナー（松江市）

年月日	事業内容
11月8日	雲南地域同和問題企業等連絡協議会研修会
11月12日	昼間火災想定避難訓練
11月21日	雲南市による法人指導監査
11月27日	第3回理事会 <ul style="list-style-type: none"> ・規則等の一部改正について ・令和元年度資金収支補正予算（案）について ・評議員会の決議の省略を行うことについて ・報告事項 ほか
12月11日	土砂災害避難訓練
12月12日	社会福祉法人監事研修（松江市）
12月12日	パートタイム・有期雇用労働法等説明会&相談会（松江市）
12月13日	第2回評議員会（みなし決議による） <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度資金収支補正予算の承認について
令和2年1月15日	ユニットケア施設管理者研修（17日まで・東京都）
1月21日	雲南地域福祉施設協議会総会・意見交換会
2月3日	理事会（みなし決議による） <ul style="list-style-type: none"> ・評議員候補者の選任について
2月7日	評議員選任・解任委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・評議員の選任（補充）について
3月5日	松江労働基準監督署立入調査
3月18日	第4回理事会 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業計画及び予算（案）について ・令和元年度資金収支補正予算（案）について ・評議員会の招集事項について ・報告事項 ほか
3月27日	第3回評議員会（みなし決議による） <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業計画及び予算の承認について ・令和元年度資金収支補正予算の承認について

Ⅱ. 総括

「平成」最後の年となった「31年度」は、5月1日の改元に伴い「令和元年度」となり、新天皇の即位など奉祝ムードが漂う新たな時代の幕開けの年となりました。

介護保険制度の分野では、いわゆる団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据えて、介護が必要な状態となっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される「地域包括システム」の構築への取り組みが促進されるとともに、10月には消費税率引き上げに伴う介護報酬のプラス改定が行われ、「介護職員等特定処遇改善加算」が新設されるなど、深刻化する介護人材不足の解消に向けた介護の受け皿整備、介護人材確保対策等の総合的な取り組みも行われました。

こうした中、きずき福祉会においては、役員の変更期にあたり新理事長の就任や施設長の交替など新たな体制による法人運営・施設運営がスタートし、引き続き利用者の立場に立った「選ばれる施設づくり」、地域から信頼される「地域とともに歩む施設づくり」、持続可能な施設経営のための「安定した経営基盤づくり」の3つの重点目標に沿って、国の動向や利用者・地域のニーズの変化などを踏まえ、「質の高いサービスの提供」と「健全経営の確立」に向けた取り組みを推進するとともに、社会福祉法人としての使命と役割を踏まえ地域社会への貢献も視野に入れた事業運営に努めました。

しかしながら、年度当初に介護職員や調理員の離職が相次ぎ、特に6月以降は深刻な人員不足の状態に陥り、ハローワークをはじめインターネットのホームページなど様々な手段で求人活動を行いましたが、全国的に介護人材の確保がますます厳しくなる中、欠員の充足には至らなかったため、島根県の指導も仰ぎながら、やむなく短期入所の利用定員を減らすことにより職員の身体的、精神的過重負担の軽減を図ることとし、12月から短期入所の定員を14人から10人に変更すべく運営規程の改正を行いました。

また、給食部門では、7月以降、調理済みの食品を加熱処理して提供する手法を導入するなど、今後の人員確保の厳しさを見据えた上で柔軟な対応を行うこととしました。

あわせて従来の処遇改善一時金に加え、新設された「介護職員等特定処遇改善加算」を活用した特定処遇改善一時金の支給や新たな「人事考課システム」の導入など、職員の処遇改善やキャリアアップを図るための取り組みを推進しました。

一方、サービス提供の面では、「看取りケア」「認知症ケア」「口腔ケア」「医療的ケア」、デイサービスでの機能訓練の充実を図り、利用者に「安全」「安心」「満足」していただける質の高いサービスを提供するとともに、一人ひとりの生活に配慮した個別ケアの実践に努めました。

このほか、1月下旬から全世界的に感染が広がった新型コロナウイルス感染症については、施設内に対策会議を設置し、国や県、関係機関から示された感染予防対策等の遵守・徹底や情報共有、マスクや消毒液など感染予防に必要な備品等の調達・確保に努めるとともに、利用者への感染予防に万全を期すため、家族等の入所者への面会制限をはじめ関係者以外の施設内立入禁止や通所施設利用者の事前検温の実施・徹底等の措置を講じました。

また、社会福祉法人による「地域における公益的な取組」の一つとして、市内14の社会福祉法人によって組織される雲南市社会福祉法人連絡会による「身近でなんでも相談窓口ネットワー

ク事業」に加え、今年度から同じく「うんなん福祉・安全サポーター活動」にも参画するなど地域貢献の拡充にも取り組みました。

Ⅲ. 法人本部事業報告

1. 理事会・評議員会・監査会・指導監査

- (1) 今期は、理事会6回（うちみなし決議によるもの2回）、評議員会3回（うちみなし決議によるもの2回）を開催し、定款の変更、決算・事業報告、予算・事業計画の承認、役員を選任、運営規程の改正等を行いました。
- (2) 監査会は、5月16日に開催し平成30年度決算の状況や会計処理、財産管理の執行状況並びに業務運営について監査を受けました。
- (3) 11月27日に雲南市による法人指導監査を受けた結果、改善報告を要するような重大な指摘はありませんでした。

2. 経営理念の徹底及び経営の透明性の確保

- (1) 職員に対して、法人の基本理念や事業計画、予算等について、各種会議、研修等を通じて周知を図りました。
- (2) 社会福祉法人としての経営の透明性を確保し、公正で開かれた事業運営を担保するため、定款、中期経営計画、事業計画及び事業報告、財務諸表等について、ホームページや広報誌「さくら苑だより」等を通じて公開しました。
- (3) ホームページを活用し施設の活動状況をPRするとともに、各施設のサービス提供体制や内容等について「サービス情報の公表制度」を活用し公表しました。

3. サービス管理

- (1) 利用者のニーズをサービスに反映するため、引き続き「お客様の声ノート」の活用等を図ったほか、地域密着型サービス施設のさくらんぼの家と桜花については、運営推進会議を開催するなど利用者や地域関係者等の評価を反映させる取り組みを推進しました。
- (2) リスク管理委員会を中心にリスクマネジメントとして事故報告書、ヒヤリハット報告書等を作成し、事故の数量的把握や事故原因の分析を行うことにより、問題点と改善策を職員が共有し事故の再発防止に努めました。
- (3) 感染症対策や衛生管理については、定期的に研修会を開催しマニュアルに沿った取り組みを行い、特にインフルエンザ・感染性胃腸炎（ノロウイルス）については雲南保健所や雲南病院から講師を招いた研修を実施し、手洗いや手指消毒の徹底など感染の防止に努めました。
- (4) 新型コロナウイルス対策として、2月以降法人内の対策会議を定期的で開催し利用者及び職員の感染予防対策の徹底を図るとともに、感染対応に必要な備品等の調達・確保に努めました。
- (5) 身体拘束委員会を定期的に開催し、職員研修会等を通じて人権擁護の姿勢を常に保ち、できる限り身体拘束をしないよう職員一丸となって廃止に向けた取り組みを進めた結果、今年度も身体拘束につながるようなケースは発生しませんでした。

- (6) 虐待防止や権利擁護など人権意識の高い職員の育成に向けた研修を実施するとともに、虐待防止チェックリスト等を実践することによって虐待防止にかかる自己覚知と意識の向上に努めました。
- (7) 苦情等については、利用者の声として真摯に受けとめ、職員会議、苦情解決委員会、第三者委員等によりきめ細やかな対応と今後の改善策を検討し、問題の解決やサービスの見直しに繋がりました。
- (8) サービスの質的向上に向けた取り組み
 - ① これからの認知症ケアへの取り組みを充実させるために、認知症介護実践者研修に職員2名を受講させ、認知症への理解と職員資質の向上に努めました。
 - ② 利用ニーズの高まる医療的ケアへの対応については、介護職員によるたんの吸引等の実施体制の充実のため、今年度も1名が福祉専門学校において50時間の基本研修を受けたほか、3名がさくら苑での実地研修を終え資格を取得しました。
 - ③ 看取りケアについては、本人や家族の想いを受け止めながら嘱託医師の指示のもとで安らかな最期を迎えることができるよう取り組み、今年度は退所者15名中6名の方の看取りを施設で行いました。
- (9) 介護業務等の効率化・省力化、介護職員の事務的負担の軽減を図るため、電子化検討委員会を設置し、先例地視察や導入システムの検討などICTの活用に向けた調査・研究を行いました。

4. 人事管理

- (1) 従来からの介護職員処遇改善加算を活用して介護職員に一時金を支給したほか、10月に新設された介護職員等特定処遇改善加算を活用して新たな一時金を新設するなど、職員の処遇改善に努めました。
- (2) 人事考課検討委員会を中心に人事考課制度の見直しを行い、11月実施の人事考課からWEBによる人事考課(E-WORK)システムを導入、自己評価と上司評価に加えて自己目標の管理プログラムと連携させることにより、職員のキャリアアップやモチベーションアップ、人材育成につながるよう取り組みました。
- (3) 新規学卒者の採用については、ハローワーク等を通じて「受験案内」を配布し募集活動を行いましたが、応募が無く採用試験を実施することができませんでした。また、欠員補充のための介護職員、調理員、看護師の募集についてもハローワーク等を通して随時求人を行いました。
- (4) 産業医の協力を得て、定期健康診断を全職員対象に年1回(夜間勤務者等は年2回)実施するとともに、インフルエンザ予防接種や出勤時における健康チェックを行うなど職員の健康管理及び職場の安全衛生管理に努めました。
- (5) ストレスチェックは労働安全衛生委員会を中心に実施し、希望する職員には産業医によるカウンセリングを行いました。
- (6) 職場風土改善委員会と職員互助会を中心に「廊カフェ」や交流会の開催など職員の親睦交流を促進するとともに、「言わんとわからん箱(意見箱)」の設置や広報紙「チェンジ」の発行

等を通じて職員の意見交換の場の提供を図りました。また、職員互助会への助成や各種共済制度の活用を図り、職員の福利厚生を充実に努めました。

(7) 職員の「法人への帰属意識の高揚」や「連帯感・一体感の助長」するため、法人のロゴをプリントしたユニフォーム（Tシャツ・ポロシャツ）を制作し着用しました。

(8) サービスの向上を担う人材の育成

① 職員一人ひとりの意識改革と能力・資質の向上を図るため、研修計画に基づき各部門において研修を実施し、多様化する福祉ニーズに対応できる人材の育成に取り組みました。

② 新人職員については、新人育成ガイドラインを基本にOJTを行い、1月、3月、1年とそれぞれの段階で新人職員が抱える仕事内容や対人関係に関する不安等を気軽に相談できるきめ細やかな支援体制により早期の職場適応と自律的成長を促すことに努めました。

③ 認知症ケア、個人情報保護、倫理及び法令順守、感染症、安全管理および衛生管理・虐待等の研修も職員会議等において実施しました。

5. 財務管理

(1) 経理規程や税理士事務所によるアドバイスをもとに適正かつ正確な会計処理を行い、監事監査や指導を踏まえて所要の改善を図るなど、社会福祉法人としての会計処理の信頼性、公正性の確保に努めました。

(2) 稼働率の向上や業務の効率化など支出削減を基本として、適切な予算執行と収益性の確保を図りました。

6. 法令等の遵守及び危機管理体制の強化

(1) 関係機関による講習会や研修に参加し、コンプライアンスの強化に努めました。

(2) 設備、器具等の定期的な点検及び適正な使用方法の徹底を図るとともに、入浴設備のある施設においては感染症対策として国や保健所の指針及び通知に基づくマニュアルを周知徹底しました。

(3) 火災や風水害に備え、消防法に基づく自衛消防組織をはじめとした災害緊急体制を整備し火災及び災害避難訓練等を行うとともに、設備器具等の定期的な点検や適切な使用方法の徹底を図りました。(火災避難訓練2回、土砂災害避難訓練1回)

(4) 雲南警察署の協力を得て交通安全講習を開催し、交通ルールやマナーの徹底を図りました。

7. 経営状況

法人全体の介護保険事業収入は、4億8,010万円と前年度に比較して292万円減少しましたが、職員の欠員により人件費が減少した影響で事業活動支出が1,400万円の減少となったため、当期の資金収支差額は3,753万円となり、当期末支払資金残高は3億1,871万円(前年度2億8,115万円)となりました。

支出については、人件費が3億3,713万円(前年度3億4,718万円)で1,005万円の減となり、事業費は7,549万円(前年度7,776万円)、事務費は2,779万円(前年度2,980万円)とそれぞれ減少しています。

固定資産取得支出は、269万円(前年度237万円)となりました。

8. 施設・事業別の経営概況

(1) 特別養護老人ホームさくら苑及びさくらんぼの家

従来型特養さくら苑及びさくらんぼの家計70床の平均利用者数は、約67.3人で前年度に比較し1.08人増加し、介護保険事業収入は、10月の介護報酬改定と相まって3億0,308万円(前年度2億9,323万円)と前年度から985万円の増収となりました。

施設別の内訳は、利用者数については従来型さくら苑(50床)が48.14人、ユニット型のさくらんぼの家(20床)が19.16人、介護保険事業収入ではさくら苑が2億0,384万円、さくらんぼの家が9,924万円となっています。

今年度末現在の入所者数は男性19人、女性51人で平均年齢は89.74歳、入所待機者は女性166人(前年度156人)、男性67人(同66人)で合計233人(同222人)となっています。

令和元年度中の退所者は、15人(死亡による11人を含む。)でした。

なお、新規入所については、定期的に入所検討委員会を開催し、透明性、公平性を確保しながら緊急性の高い方の入所を優先するよう努めました。

(2) 短期入所施設特別養護老人ホームさくら苑(短期入所生活介護事業)

短期入所生活介護事業は、職員不足により7月から利用を抑制するとともに、12月からは利用定員14床を10床に変更したことにより、年間の延利用者数が3,810人と前年度の4,772人に比べて大幅に減少し、介護保険事業収入も4,032万円(前年度5,018万円)と986万円の減収となりました。

(3) 木次町デイサービスセンター(通所介護事業)

木次町デイサービスでは利用延日数が6,690日(前年度7,169日)、1日の平均利用者が21.7人(前年度23.3人)と前年度に比べ1.6人の減となり、介護保険事業収入も6,485万円(前年度6,880万円)と395万円の減収となりました。

(4) 木次居宅介護支援事業所(居宅介護支援事業)

介護保険事業収入は1,778万円(前年度1,692万円)で96万円増加し、月平均利用者は103人(前年度104人)でした。

(5) 小規模多機能型居宅介護事業所桜花

利用延日数は6,662日(前年度6,767日)、日平均利用者は18.20人(前年度18.54人)と利用は減少しましたが、介護保険事業収入は5,405万円(前年約5,389万円)と前年度とほぼ同額で推移しました。

IV. 施設・事業別事業報告

各部門別の事業報告は、次のとおりです。

令和元年度特別養護老人ホームさくら苑事業報告 (さくら苑・さくらんぼの家共通)

総括

令和元年度の総括として、利用者様への楽しみの提供は、職員不足などから活動が十分にできず、加えて年が変わってからの新型コロナウイルス感染対策によって、面会の規制や外出の自粛など、今までの生活を送っていただくことが困難になり、部門運営に一層の工夫が必要になった。

地域の方との交流については、前年度同様に進め、特に地域の小学校などに出向き、認知症サポート養成講座の講師として、市や社会福祉協議会と一緒に取り組み地域貢献の視点で行った。

職員に対しては、人事考課を単なる査定材料としてだけではなく、自身の出来ていることや出来ていない事などを自覚してもらい、成長のためのツールとなるように新システムを取り入れた。

事業実績・成果

1. 質の高いサービスの提供

計画	実績・成果
レクリエーション・アクティビティの充実	習慣や日課に沿った活動について利用者皆様に対して提供することが出来ず、個別や単発的に行うことはできたが、目標に掲げていた「変革・チャレンジ」として、職員自らが考え、自分達でアクションを起こして質の高いサービスにつながるように創造することが十分でなかった。
接遇の向上と権利擁護	全体研修を行ったり、外部研修に参加してもらったりしたが、とっさの時にスピーチロックがあったり、利用者様に不快な思いをさせる場面があり、引き続き研修参加や啓発により、接遇向上に努める。
ターミナルケアの充実	看取り委員会にて計画し、外部研修に参加したり、看取りの指針を見直し職員に対して示すことができた。本人や家族様に対して、その思いに乖離が無いよう、入所の際にお話する内容について見直した。
口腔ケアの向上	口腔ケア委員会に、歯科医師様や歯科衛生士様に参加いただき、事前に食事風景をビデオに録り、食べ方や介助の方法について指導いただいて改善につなげ、食べることについて質の向上が図れた。また、職員がトロミの粉の使用について、リスク面や食べやすさや美味しく感じられる食事に焦点をあて、本人様にあった量を提供できるように表にして提供することができた。また、トロミ材の使用料の軽減につなげることもできた。

2. 人材育成・業務改善

計画	職員の資質向上と指導・統率能力の向上	実績・成果	職員不足から、良いタイミングでの指導やモチベーションアップにつなげられる職場環境造りが十分に出来なかった。指示待ちでなく、自ら動ける職員の育成は、一部の職員に対しては出来たが十分でなかった。
	情報の共有化と業務効率化		施設内にWi-Fi環境を整備し、苑外アドバイザーに依頼してネット環境の充実や職員に対してアドレスを割り当て、方針や連絡事項はメールにて発信し、スピード化を図ることが出来た。電子カルテ化まではできなかった。

3. さくら苑

計画	個別ケアと基本サービス提供	実績・成果	接遇面で、お客様の声ノートでの意見を取り上げ、対応が不適切だったことや言葉遣いについて、職員会議や部門長会議、各グループの会議で話し合い、真摯に対応しサービスの改善に努めた。
	活動と参加		年度当初は、ほぼ予定通りの行事など行うことが出来た。納涼祭では今福座の方に来ていただき、利用者様、家族様共にとっても喜んでいただいた。2020年に入ってから、新型コロナウイルスの影響で、苑外での活動が制限され、外部の方をお呼びすることが出来ず、支障が出た。
	認知症ケア		職員数減少により外部研修などに支障が出たが、喀痰吸引の研修など、必要なものにはできるだけ参加できるようにした。

4. さくらんぼの家

計画	個別ケアの充実	実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 各居室では利用者様にとって馴染みの物を用意し、過ごしやすい空間作りに努め、キッチンでは施設で利用者様と一緒に作った野菜を収穫し、それを調理し提供することで家庭的な雰囲気作りができた。 意見交流会での意見を参考に個別ケア(花の郷ドライブなど)の充実化を図り、利用者様の満足につなげた。
	家族様との関わり・地域とのつながり		<ul style="list-style-type: none"> 家族様と定期的に連絡を取り合うことで、面会・外出も気兼ねなく行っていただき、信頼関係の構築に努めた。 行事担当を中心に交流会を計画・実施し、地域の方々にも行事に参加していただき、運営推進会議の委員様の情報を元に、地元の小学校運動会見学など地域との交流も深めることができた。

5. 栄養調理			
計画	安全で美味しく、 楽しみのある食事 提供	実績・ 成果	職員不足から予定していた「お楽しみの日」企画は1回しか実施できなかった。安全面においては食品の衛生的な取り扱いを徹底し、食中毒予防はできた。
	家庭的な雰囲気が 感じられる食事の 工夫		自施設調理ができるときは、普段の家庭で食べられるような季節感のある料理を取り入れるよう努力した。
	経口維持、低栄養 の予防と改善		医師、歯科医師と連携し、できるだけ最期まで口から食べていただけるよう個別ケアの働きかけができた。

6. 看護			
計画	入居者様の健康 管理	実績・ 成果	<p>病状変化の早期発見、介護士からの情報を基に適切な判断をし、担当医への報告を行い、指示により病院受診・入院加療の必要な方の援助をおこなった。</p> <p>年間を通じて、28名の方が入院された。同じ入居者様の入退院の繰り返しや、入院中にお亡くなりになるケースもあった。入居者様の高齢化が進み、複数の疾患を持つ方も多く、病状変化も多岐にわたることもある為、今後も情報収集や日々の観察を怠らず、健康管理に努めていく。経管栄養者が減少しているので、新規の方の経管栄養者の入所も検討課題である。</p>
	病院受診		定期受診が必要な利用者様が多く、毎月複数名の受診がある。また、急な受診も増えており需要はあるが、看護師の経験不足などから応援を頼んでいるのが現状で、看護師の所での受診体制の確立が今後の課題である。
	感染症予防対策		委員会を3カ月に1回開催し、施設内での感染症の状況を共有、予防や拡大防止対策の検討をおこなった。また、外部講師を招き研修会を開催し、施設の感染対応策の見直しも行った。加湿器の使用を止め、換気と職員の手指消毒の徹底を行った。日頃から標準予防策の徹底を行い、感染拡大防止に努めていく必要がある。
	ターミナルケア		今年度は、ターミナルケアを実施した方は 6名 。多職種連携により看取りケアを行うことが出来た。家族の意向を確認しながら、嘱託医につなげ、医療とケアの両立を行うことが出来た。

業務改革	利用者様の急変や、職員の体調不良による人員不足などで、日常業務が終わらず、残業をせざるを得ない状況があった。電子カルテの導入に向けて、業務効率化などを進めていきたい。オンコール体制が現状では不十分であるため、看護師間で話し合い体制づくりを進めていく。
	チームワークの醸成と接遇 看護師間の連携が十分であると言えず、教育方法の確立と接遇面の強化を引き続き図っていく。

7. 病院受診

① 外来受診

(さくら苑)

受診科	内科	外科	整形	皮膚科	眼科	耳鼻科	泌尿器	救外	神内	精神	
人数	昨年度	22	8	27	13	3	7	5	21	0	0
	今年度	42	12	30	21	5	6	6	10	1	1

(さくらんぼ)

受診科	内科	外科	整形	皮膚科	眼科	耳鼻科	泌尿器	救外	神内	精神	
人数	昨年度	6	12	16	8	3	0	1	3	7	0
	今年度	9	5	38	11	3	0	2	10	9	0

② 入院

(さくら苑)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
人数	昨年度	3	3	2	1	3	2	3	0	5	1	2	1
	今年度	0	1	1	0	1	3	6	0	2	0	2	3

(さくらんぼの家)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
人数	昨年度	1	2	0	0	3	0	2	1	1	1	0	1
	今年度	2	0	3	3	0	0	0	0	0	1	0	0

亡くなられた方	昨年度	24人	退所された方	昨年度	1人
	今年度	11人		今年度	4人

亡くなられた場所 内訳	病院	5人
	さくら苑	3人
	さくらんぼの家	3人
退所された方 内訳	さくら苑	2人
	さくらんぼの家	2人

さくら苑月別平均利用人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成30年度	48.74	46.88	48.44	48.10	48.26	47.57	48.49	47.04	46.39	46.13	47.29	48.10	47.62
平成31年_令和1年度	49.40	49.94	48.70	49.10	49.46	47.94	44.91	45.90	47.13	48.20	48.32	48.65	48.14

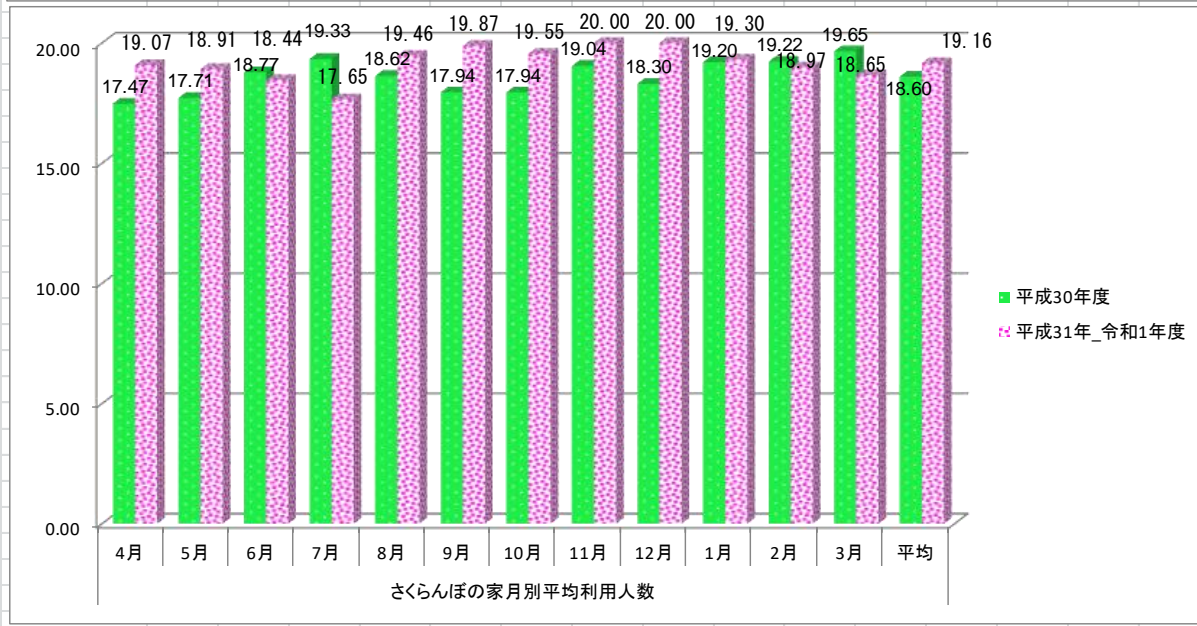
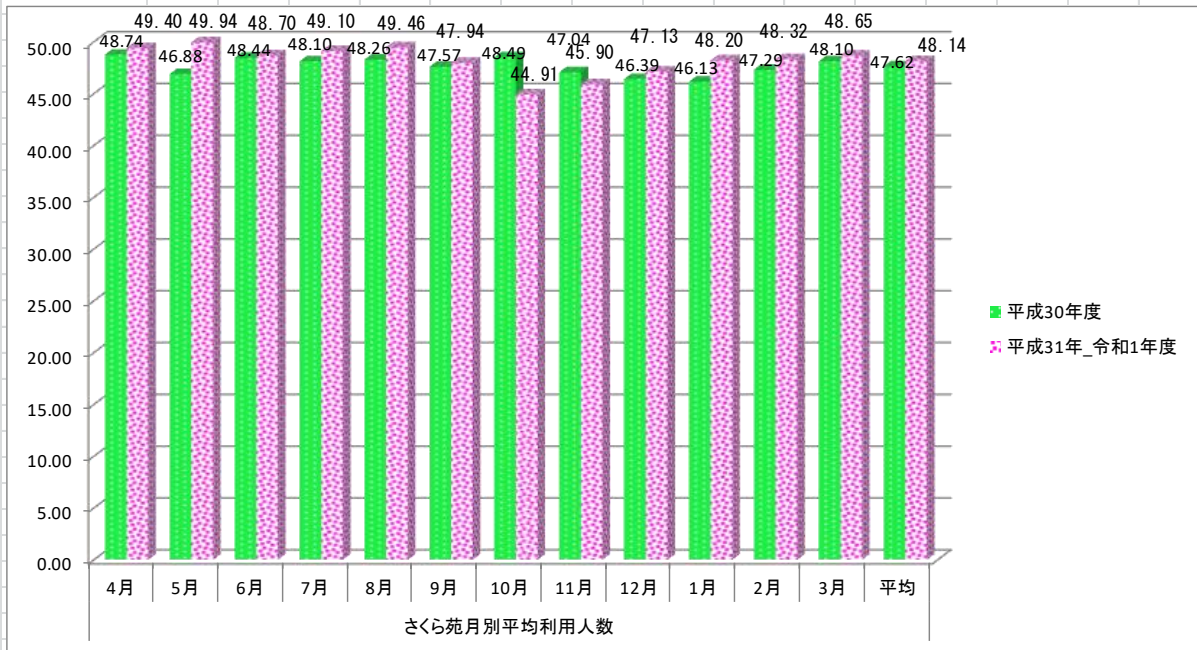
96%

さくら苑月別平均介護度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成30年度	4.02	3.82	3.91	3.83	3.87	3.77	3.89	3.75	3.70	3.64	3.74	3.81	3.812
平成31年_令和1年度	3.92	3.97	3.91	3.92	4.01	3.86	3.64	3.66	3.79	3.85	3.85	3.86	3.853

さくらんぼの家月別平均利用人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成30年度	17.47	17.71	18.77	19.33	18.62	17.94	17.94	19.04	18.30	19.20	19.22	19.65	18.60
平成31年_令和1年度	19.07	18.91	18.44	17.65	19.46	19.87	19.55	20.00	20.00	19.30	18.97	18.65	19.16

96%

さくらんぼの家月別平均介護度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成30年度	3.44	3.51	3.77	4.00	3.90	3.73	3.64	3.88	3.64	3.89	3.86	3.98	3.77
平成31年_令和1年度	3.86	3.79	3.63	3.48	3.96	4.07	4.01	4.10	4.20	4.03	3.94	3.91	3.92



令和元年度短期入所生活介護事業報告

1. 総括

令和元年度の総括として、さくら苑の職員不足が影響し、十分なサービスが提供できなくなることから、短期入所の受け入れを7月より制限（新規の受け入れ中止、他施設への利用の促し等）を始め、12月からは短期入所施設の定数を14名から10名に変更して対応しました。その結果、年間で3,810名（前年4,772名）、一日平均10.4名（前年13.1名）で前年対比79%と大幅に前年を下回るようになりました。

また、『一人ひとりに寄り添い、敬い、尊重し、心地よい空間と安心をお届けする』をスローガンに掲げ、利用者様・ご家族様の思いを大切に、ご利用時や在宅でも安心した生活と、心にゆとりのある生活で笑顔のある日々を過ごしていただけるよう支援をしました。外出支援では、4月のお花見（10名参加）、5月にチューリップ畑見学（5名参加）、9月ブドウ狩り（5名参加）にお出かけし大変喜んでいただきました。

2. 事業の実績

① 個別ケア

情報を基に状態の把握に努め、在宅生活に近付けたケアの提供で利用中の心身の状態安定に努めました。

② 自立支援

利用者様に過剰な支援はしないで、見守り・声かけを行い在宅生活の継続に努めました。

③ 尊厳の確保

人権の尊重と高齢者虐待防止への認識を深め、身体拘束廃止に取り組み、利用者様が人間らしく尊厳のある生活を送れるように努めました。

④ 緊急時の対応

今年度の対象者はありませんでした。

⑤ 重度化対応

医療的ケアの研修を行い介護士・看護師の協力体制で在宅介護の負担軽減に努めました。また、重度化対応に伴い、オンコール体制の強化を図り迅速な対応に努めました。

3. 重点実施事項について

① サービスの質の向上を図る

- ・ご利用者一人一人のニーズに応じた施設計画書を作成し、ケアを実践し高いサービスに努めました。その後評価を行い各居室に報告しました。
- ・レクリエーションで、その月にあったテーマを決めて、利用者様と壁面を作成して展示しました。
- ・毎日のレクリエーションとラジオ体操を実施しました。利用者様の余暇活動の充実として、ぬり絵・パズル・折り紙等を提案いたしました。また、2カ月に1回グループレクを開催し手芸や料理・花植えを行いました。季節の行事としてひな祭り・七夕・クリスマス会を

開き喜んでいただきました。

- ・ショート専用の畑を作り、利用者様と一緒に植え付けから行き、野菜の成長を利用時に楽しみにしておられました。また、野菜の収穫・料理をして皆さんと一緒においしくいただくことができました。
 - ・利用者様の誕生日会を開催し、手作りの写真付の誕生日カードやプレゼントをお渡しし、利用されている皆様と一緒にお祝いをいたしました。
 - ・洗濯物は、汚物用と洗濯物用と色分けしたネットを使用して紛失・忘れ物防止に努めました。
 - ・出来るだけ在宅に近付けた居室の環境を作り、安全に過ごして頂き事故防止に努めました。
 - ・利用者様の状態変化や家族様からの情報を随時職員間で共有するように努め、利用をスムーズに行うようにしました。
 - ・職員間の報告・連絡・相談を密に行い利用者の方の笑顔を沢山見られるよう、職員一人一人が自覚し行動を行いました。
 - ・デイサービスとショート利用時の情報交換し、なじみの職員で安心したサービスの提供で在宅生活の支援に努めました。
- ② ご家族との信頼ある関係作り
- ・ご利用中の状態変化等があれば速やかに連絡し、また送迎時や連絡ノートを活用しご家族様と情報交換を行い、信頼ある関係作りに努めました。
- ③ 関係機関との信頼ある関係作り
- ・ご利用者様に関する報告・連絡・相談を密に行い、信頼を築き対応も迅速に行いました。また、担当者会にも積極的に参加し情報提供、コミュニケーションを図りました。
- ④ 長期入所者、短期利用者合わせて99%以上の稼働率を目指す
- ・受け入れ制限、定数の削減があり、残念ながら目標の稼働率を下回る事になりました。
- ⑤ 感染症対策の強化
- ・食中毒・感染性胃腸炎・インフルエンザ等の感染症の感染経路を遮断し、拡大予防に努めました。また、利用前の身体状態の確認やうがい・流水での手洗いの徹底で感染予防に努めました。

4. 利用状況

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1日平均利用者数H30年度		13.2人	13.2人	13.0人	13.2人	13.1人	13.5人	15.0人	10.2人	13.1人	12.1人	12.9人	14.0人
1日平均利用者数 R1年度		13.1人	13.3人	13.6人	12.3人	11.5人	9.3人	8.9人	8.1人	7.8人	9.1人	8.4人	8.9人	10.4人
目 標		14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人	10人	10人	10人	10人	人
介護報酬日数(R01)		392人	412人	409人	382人	357人	278人	277人	243人	243人	281人	260人	276人	3810人
介護報酬日数(H30)		395人	405人	397人	410人	405人	405人	466人	306人	407人	376人	361人	434人	4772人
前年対比(%)		99.20%	101.70%	103.00%	93.10%	88.10%	68.60%	59.40%	79.40%	59.70%	74.70%	72.00%	63.60%	79.80%

【介護度別利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	前年度
要支援 1	7(2)	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	9(2)	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	76(2)	60(3)
要支援 2	28(5)	28(4)	14(2)	16(2)	24(4)	13(2)	13(2)	14(2)	12(3)	17(3)	4(1)	13(2)	196(5)	276(10)
要介護 5	61(5)	71(4)	83(5)	74(5)	60(4)	32(3)	34(3)	31(3)	20(2)	25(2)	29(2)	20(2)	540(4)	647(9)
要介護 4	58(7)	57(6)	54(8)	37(6)	37(7)	37(6)	34(6)	31(5)	42(6)	42(6)	48(8)	42(7)	519(14)	846(14)
要介護 3	96(17)	98(14)	88(16)	99(18)	81(12)	62(11)	71(15)	48(12)	49(11)	56(9)	39(7)	41(7)	828(19)	971(33)
要介護 2	59(10)	66(9)	71(11)	48(8)	59(9)	46(9)	40(8)	53(8)	80(12)	96(12)	87(11)	102(13)	807(24)	1149(25)
要介護 1	83(11)	86(11)	97(11)	102(11)	90(11)	82(10)	79(10)	57(8)	34(6)	39(5)	47(7)	52(6)	848(14)	823(17)
計	392(57)	412(49)	409(54)	382(51)	357(48)	278(42)	277(45)	243(40)	243(41)	281(38)	260(37)	276(38)	3810(82)	4772(111)

5. 今後の検討課題

- ・ 利用者様に余暇活動（レクリエーション等）の充実を図る
- ・ ショートユニット、施設グループとの協力体制の強化
- ・ 医療依存の在宅現状のため、医療的ケアの強化
- ・ 在宅部門として、デイサービス、関係機関との連携強化
- ・ 利用中での事故防止の徹底
- ・ 緊急時の連絡体制の徹底
- ・ 稼働率の向上
- ・ 感染症対策の強化

令和元年度木次町デイサービスセンター事業報告

総 括

ご利用者様の身体的・精神的な健康の保持と状態変化への適切な対応を実践することができました。レクや季節の行事などに参加された利用者様が、非常に楽しんでいる様子を多く見ることができて印象的でした。レクや行事だけでなく、適切な介護技術をもって、快適な入浴・排泄・食事をしていただけるように職員一同心掛けました。

これからも関わりの中で生き甲斐を持っていただけるよう、改善すべき所は改善しながら質の高いサービスを提供し、安心・安全に利用していただけるように努めます。

1. 事業目的について

通所介護事業の目的である「利用者の人格・意思を尊重し、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう利用者の立場に立った適正なサービスを提供することにより、利用者と家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る」ことについて、それぞれの専門職が協働の姿勢で関わり、チームケアを行うことができました。また、リハビリの最中に本人様の意思や訴えを重視し、無理なく”楽しみからすすんでできるリハビリ”を目指し、できるという達成感を味わっていただきながら、リハビリを実施しました。

2. 事業実績について

(1) 自立支援・個別ケアについて

利用者様や家族様の人権尊重の考えを柱に、計画書の作成とサービス提供を行い、従来の生活継続とその人らしい生活を営んでいただけるように支援しました。

普段の会話や意見交流会などのご意見、および、家族様から家庭での状態などを聴取し、それをプログラムに取り入れ改善して個別ケアに繋げることができました。

(2) 状況把握と意向を踏まえた同意について

サービス提供前に、アセスメントをしっかりと行い、利用者様と家族様の状態や意向を把握し、同意を得たうえでサービスを提供しました。

(3) 情報の共有化について

ケース検討や介護技術研修などを実施し、ご利用者様の状態やケアの方法など情報の共有や知識、技術の向上を行いました。個人ノートを活用し他事業所との情報共有も行き円滑に対応できました。

(4) 運営体質の改善について

お客様の声やご意見をいただくと、その日のミーティングで話し合い改善策を検討しサービス提供を行いました。すぐに対応できない事案についても、改善に向けて努力しました。短期入所施設との連携を取りお客様のためのサービス提供に努めました。

(5) 継続的サービスの実施について

居宅介護支援事業者や地域包括支援センターと随時または継続的に、サービス評価を行い

情報提供することにより、利用者の増加を図ることができました。

(6) 評価・見直し・提案について

ミーティングやケース検討などにより利用者様の状態を把握し、定期的に通所介護計画の評価・見直しを行い、関係事業所に対し報告書や電話連絡、訪問によって提案を行いました。

3. スローガンについて

“一人の笑顔でみんな元気に、元気はつらつデイサービス”という旗印を掲げ職員一丸となって取り組みました。スローガンがあることで、利用者様にいかに笑顔で生き活きとしていたただけるか職員一人々が考えながら全てのケアに関わることができました。

4. サービス提供について

(1) 連絡体制の確立と関係性の強化

ご利用者様と関わる事業所間で個人ノート等を活用し連絡体制や関係性・信頼性の強化を図りました。このことにより、チームケアの実践と基盤づくりができました。

(2) 利用実績について

① H31年（令和元年）度の新規契約件数は23件／年間でした。

入院や本入所などで実績を思うように伸ばすことができませんでしたが、定期的に新規利用者は受け入れを実施しました。

上半期利用状況	合計	H31.4	R01.5	R01.6	R01.7	R01.8	R01.9
稼働日数	309	26	27	25	27	27	25
全体（実人数）	—	74	71	74	76	72	73
全体（延べ人数）	6,690	608	616	611	605	602	570
平均利用者数	21.7	23.4	22.8	24.4	22.4	22.3	22.8
月初登録者数	930	81	81	78	82	82	81
開始利用者数	28	2	3	4	2	1	0
終了利用者数	35	1	6	1	1	2	2
月末登録者数	924	82	79	82	82	81	80
下半期利用状況	合計	R01.10	R01.11	R01.12	R02.1	R02.2	R02.3
稼働日数		27	26	24	24	25	26
全体（実人数）		70	65	65	64	64	64
全体（延べ人数）		571	538	485	467	501	516
平均利用者数		21.1	20.7	20.2	19.5	20.0	19.8
月初登録者数		80	77	74	71	73	70
開始利用者数		1	3	0	4	1	7
終了利用者数		3	6	3	3	3	4
月末登録者数		77	74	71	73	70	73

5. 身体拘束廃止に向けた取り組み

○苑内研修等で全員が共通の理解を持つことができた。

令和元年度 身体拘束件数 0件

6. 要望・クレーム・トラブルへの対応

①外部から受け付けたクレームは「クレーム解決規程」により「クレーム受付書」や「お客様の声ノート」に記載し、その対応方法について全職員が意見を出し合い協議し、クレーム内容については真摯に受け止め改善し、改善方法や改善過程を報告し解決を行いました。

②送迎時、家族とのコミュニケーションを図り信頼関係を築き、話し合える関係作りに努めました。

③日々利用者様からのどんな小さな意見・要望・クレームでも聞き逃さないよう心掛け、必要時にミーティングにおいてそれぞれに聴取した意見や気づいた点を話し合い、改善が必要な場合は協議し適切かつ迅速に対応するとともに、可能な限り利用者様の意見を反映できるように努めました。

7. 地域、家族との交流・連携

地域との交流として、たくさんの方にお越しいただき、歌や踊り、盆踊り等を披露していただきました。また、4月には花見ドライブ、6月には買い物ツアー、11月には紅葉ドライブなどを実施し、楽しんでいただきました。

8. 職員の技術・能力向上への取り組み

○ 対人援助技術の向上のため、法人内の研修に参加し技術力向上に努めました。

○ 職場内研修を実施し、職員の資質向上とサービスの質の向上に努めました。また、家族からの情報や個人の状態の変化についてミーティング等で話し合い、その後ケアに繋げることができました。

○ チームビルディングを意識し職務に取り組み、職員間で声掛けをして、連携を図りながらお互いに助け合って人の仕事も自分の仕事として協力できました。

9. 災害対策と取り組み

島根県のハザードマップを受けて、危険地域であることの認識を強め、避難訓練を実施し、土砂災害などの際の避難がスムーズにできるよう、利用者様の安全確保に努めました。

10. 改善課題の設定と取り組み

①利用者様や家族様や他事業所とコミュニケーションをしっかりと、今以上の信頼関係の構築をします。

②認知症への理解をさらに深め、より細やかなケアができるよう研修会の定期的な参加と実施、並びに能力・資質向上と安全対策に努めます。

③地域とのふれあいを深め社会資源を活用しながら、地域と共に作り支え合うネットワーク作りを行います。

- ④個別ケア重視とともに、個人の生活意欲や生きがいなどを引き出せるケアにつなげられるよう、思いを聴き入れ個人記録に落とし込み、職員間で共有して個人個人にあったケアが実施できるように対応していきます。
- ⑤お客様のニーズを積極的に探し出し、それに応え、短期入所事業や居宅支援事業所などとの連携を強化し、近隣他施設にないサービスを実践して差別化を図ります。
- ⑥チームビルディングを主体とした業務全体の見直しを図ります。
- ⑦職員の国家資格取得への取り組みで多様化するニーズや専門性を強化し、研修などを実施しての技術面・接遇面の強化を行います。
- ⑧福祉職員としての倫理観を醸成するとともに、職員のモチベーションを上げて、やり甲斐のある働きやすい職場づくりを行います。
- ⑨職員の持つべき、人に対する「優しさ・思いやりの気持ち」を育みます。

令和元年度木次居宅介護支援事業所事業報告

1. 総括

今年度も、定期的に開催される自立支援ケア会議や地域ケア会議への参加を通じて、中山間地域特有の生活環境への課題や、単身あるいは高齢のみの世帯、認知症単身世帯等の生活課題など、多くの課題を関係機関、関係者で共有しました。支援困難な事例が多くなっている中、自身のケースに照らし合わせ、問題の解決方法のヒントとならないか模索したり、個別の課題解決の難しさを改めて知る機会ともなりました。この「どうにかならないか」の一つ一つの声を行政や保険者に届けることが地域包括ケアシステムの一翼を担う介護支援専門員としての役目でもあります。

また、地域の声を聴く「虫の目」のツールとして、「認知症キャラバンメイト」としての活動を通じた車座による地域の皆様との交流も、法人の立地する地域を知る上での良い機会となりました。

2. 事業目標

◇ サービス目標

1) 自立支援の目的に沿ったケアプランの作成

- ・利用者がその人らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）への関わりを含めたアセスメントやプラン作成ができるよう研修等にも参加し、スキルの向上を図りました。

2) 安心感の提供できる相談援助

- ・主任介護支援専門員を含めた職員体制で、在宅介護に向けての相談支援や専門的な助言を行いました。
- ・利用者と家族の想いに寄り添うことで、「相談してよかったな」と感じていただけるよう、安心感が提供できる相談援助を行うとともに、必要な時にはタイムリーな支援につなげられるよう体制を整えました。
- ・気軽に声を掛けていただけるよう、地域に出向いての講習会等で、身近な相談窓口であることの周知を図りました。

◇ 運営目標

1) 運営基準に沿った給付管理件数の確保

- ・常勤3名体制による上限までの給付管理数を目指し、依頼があった場合はほぼ断ることなく受け入れを行いました。

2) 地域包括ケアシステム推進に向けての取り組み

- ・地域包括ケアシステムのさらなる推進に向け、地域課題の抽出や解決に向けた行政への繋ぎとしての役割を果たせるよう研修会やケア会議等に積極的に参加しました。

3) 在宅部門の連携強化

- ・法人内の「通所介護」「短期入所生活介護」との連携を強みに、各事業の特色や機能の紹介を行うとともに、ケースによっては「小規模多機能型居宅介護事業所」への紹介を行い、切れ目のない在宅介護への支援を行いました。

3. 給付動向

令和元年度給付管理数

項目	新規受入数	総合計	月平均	一人当たり件数
件数	44	1,251	104	34.6

加算取得件数

項目	入院連携Ⅰ	入院連携Ⅱ	退院退所加算ⅠⅠ	退院退所加算ⅡⅠ	退院退所加算ⅠⅡ	退院退所加算ⅡⅡ	退院退所加算Ⅲ	初回加算	小規模連携加算
件数	42	9	1	1	14	16	1	37	3

平成30年度給付管理数

項目	新規受入数	総合計	月平均	一人当たり件数
件数	37	1,239	103	34

加算取得件数

項目	入院連携Ⅰ	入院連携Ⅱ	退院退所加算ⅠⅠ	退院退所加算ⅡⅠ	退院退所加算ⅠⅡ	退院退所加算ⅡⅡ	退院退所加算Ⅲ	初回加算	小規模連携加算
件数	34	10	3	0	7	12	3	31	3

- ・病院等医療機関や老人保健施設との連携を密に行うことで退院・退所に向けての支援を積極的に進め、スムーズな在宅生活に繋げるとともに、各種加算が取れる根拠書類を整えました。

4. 適正な給付管理

- ・給付管理における実績、各加算要件、再請求等については、全員で確認しながら請求業務を行いました。
- ・毎月、特定事業所集中減算の確認を行い、特定の事業所に不当に偏ることがないように留意するとともに、集中する事業所に対しては半期に1度、正当な理由に基づき保険者への申請を行い、適正であるとの判定結果を得ました。
- ・特定事業所加算Ⅲに係る基準の順守状況を毎月項目に沿って確認し、記録を保存しました。

5. 支援困難事例への積極的な対応

- ・今年度、地域包括支援センター等からの紹介により、認知症の独居高齢者、精神疾患及び認知症状を有する方を介護する高齢者世帯、同居家族の介護力不足による不適切な介護など支援困難と思われるケースが3件ありました。主任介護支援専門員を窓口とした受け入れを行い、各種専門機関や地域包括支援センター等からの専門的な意見や助言を得るとともに、状態に応じ支援会議を開催することで、適切な医療や支援への繋ぎを行うことができました。

6. 介護予防支援事業・介護予防ケアマネジメント

- ・雲南市社会福祉協議会から委託を受け、各介護予防事業所と連携し業務を実施しました。実

績は、次のとおりです。(延べ人数)

介護予防業務 128 名

介護予防マネジメント業務 12 名

小規模居宅介護事業所連携加算 1 名

7. サービスの質・介護支援専門員としての専門性の向上

- ・利用者意向・満足度調査を実施しサービス評価や要望など現状把握を行い改善に努めました。
(調査結果：大いに満足・満足；91%、普通；6%、おおいに不満；3%)
また、各研修や地域ケア会議へ参加し自立支援に向けたケアマネジメント技術・サービスの質の向上に繋がるよう自己研鑽に取り組みました。

8. 関連機関との連携

- ・行政機関、雲南地域包括支援センター、医療、サービス事業所、民生委員等と連携を図り、地域福祉の拠点として包括的なケアマネジメントを実践しました。

9. 苦情対応

- ・今年度、苦情受付の実績はありませんでした。

10. 24時間連絡体制・相談対応体制の確保

- ・電話転送システム及び各担当者が携帯電話を保持することで、マニュアルに準じた24時間365日の連絡体制を確保し、緊急サービスの調整など状況に応じた対応を行いました。

11. 研修の実施

- ・相談援助技術の向上及びケアプラン作成能力の向上、介護保険法の理解を目標に介護支援専門員協会・部会主催の研修会をはじめ、雲南糖尿病サークル研修会、認知症予防・治療・介護の最前線シンポジウム、介護支援専門員と薬剤師の連携研修会、雲南市多職種連携ネットワーク研修等に参加しました。令和2年から年度末にかけては新型コロナウイルス感染症流行拡大予防のため各種研修会が開催中止となりました。

12. 個人情報保護

- ・法人の管理する「個人情報保護等の漏洩及び事故発生対応マニュアル」に基づき、個人情報は施錠した場所に保管するなど、適切な管理を行いました

令和元年度小規模多機能型居宅介護事業所桜花 事業報告

「総括」

桜花理念

“住み慣れたこの地域で笑顔がみられ安心した暮らしを共に支えながら歩んでいきましょう”

運営推進会議で外部評価を実施し、地域密着型施設としての存在意義や地域に根ざした施設造りを事業計画に反映させ活動しました。もっと地域の方と交流を持って小規模多機能の持つ地域に根付いた活動を行うことを広くPRするため、認知症サポーター講座で積極的に地域に出向き、寸劇や事例検討など、より実践に近い講義を行いました。

また、利用者確保に向けて取り組みを行ったところであり、小規模多機能の特色である「通い・訪問・泊り」と柔軟な対応をすることで本人や家族の意向に沿った支援を行うとともに、高齢者世帯や独居など家庭状況に応じてプランニングを行い、「自立支援」を促し実践しました。

特に「訪問」には力を入れ、買物や掃除、食環境を見直し生活環境の改善に努めました。

そして、地域での交流を大切に、地域の方を招き桜花で交流してもらうことで在宅での生活を後押しすることができました。

小規模多機能という施設を十分に理解してもらいながら利用していただき、小規模の持ち味を理想的に展開したことで、理念である笑顔が見られ、利用者の安心した暮らしを支えることができました。

「ご利用者様及びご家族様へのかかわりと問題点の把握、新規利用の取り組みを行いました」

- ・毎月桜花会議やケース会議において、新規ケースや対応困難事例など話し合いの場を設け意識統一を図りました。事例検討会を通じて問題点を把握し、解決に向けて実施をしていきました。
- ・より多くの関係作りをしていくため訪問回数を増やし、家庭内の状況把握と声掛けにて安心感をもってもらいよりよいサービスにつなげることが出来ました。
- ・新規利用にあたり、アセスメントを行い、本人、家族ニーズに対応したケアプランを作成し、家族と職員とでマネジメントを行うことで柔軟な対応ができました。
- ・送迎を中心とした家族へのかかわりを保つべく、会話をしながら情報交換を致しました。一人の職員が対応するのではなく、状況に応じた送迎手順を踏んで家族との関係性を深めました。訪問時に得た情報は、家族の要望を含めミーティングや業務日誌で報告をして職員で共有しました。
- ・法人主催の研修会や外部研修に参加するとともに、認知症に係る勉強会や資格取得に向けた取り組みを行い、対人援助技術を学び実践しました。
- ・登録25名は達成できませんでしたが、常に登録20名以上を目標に取り組みました。

【介護度別×ケア種別】

	要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2	
	実	延	実	延	実	延	実	延
通い	0	0	3	369	6	780	6	792
泊り	0	0	3	100	4	110	4	314
訪問	0	0	1	4	5	1,015	3	535
	要介護 3		要介護 4		要介護 5		合計	
	実	延	実	延	実	延	実	延
通い	3	608	2	198	6	1,373	26	4,120
泊り	1	268	2	113	5	1,295	19	2,200
訪問	0	0	1	1	1	175	11	1,730

「自己表現の尊重、本人の“～したい”の実現を可能にしました」

- ・新規利用者の方については必ず「こんな方シート」作成し活用しました。追加事項を加筆し、より詳細に本人の目標「ゴール」を導き出すことができました。

「生活の支援と変化への対応と取り組みを行いました」

- ・日々様子の違うことを見つけ出し、記録した内容を会議や送りで周知しました。
- ・訪問のみ利用される方で認知症もあり、理解力低下がみられる方への支援として、内容と電話番号の書いたカードを渡し記憶していただきました。そのことで通いにも参加されるようになり、在宅生活の幅が広がりました。
- ・「一人暮らしの方」など家庭の状態に合わせて洗濯や桜花へのオムツの配達などによりその方の生活を支えました。また、急な体調の変化があった時には、桜花での泊りを勧めたり、受診の声掛けなども行いました。

「地域での暮らしを支援しました」

- ・年間行事計画の立案について行事の担当を決め、担当者が中心となり確認をしながら行いました。実施した後の報告を欠かさず行い、次年度の活動へのヒントとして記録として残しました。
- ・季節行事や活動などホームページで活用し掲示しました。
- ・家族への案内と日程調整など迅速に行い、参加を促しました。
- ・民生委員によるお話しボランティアや踊りなど披露していただきました。
- ・地域のふれあい祭りなど交流センターへパンフレットや桜花通信など持って行き桜花の事業を知っていただきました。

令和元年度の活動

月	行事	内容	参加者
4月12日	花見	さくら苑敷地にて桜を見ながらの昼食会	利用者 10名

		をしました。	
4月27日	季節お菓子作り	団子を手作りし、歌を唄い、体操をしました。	利用者9名
5月27日	季節お菓子作り	よもぎ白玉を手作りし、歌を唄い、体操をしました。	利用者11名
5月20日	春季遠足	陽だまりの丘へ行き、景色を見てお茶会をしました。	利用者3名
6月12日	地域交流会	地域の方を桜花にお招きしボランティアとして笹巻作りを利用者と一緒にして食べてもらい交流を図りました。	利用者10名 地域の方3名
7月8日	七夕行事	短冊に思いを書き、七夕の唄を唄い、由来の話をしました。	利用者7名
7月20日	えびす祭り花火見学	桜花からえびす花火が見える場所を見つけ出し観覧しました。当日は雨がぽつぽつ降りましたが、最後まで見ることができました。	利用者3名
7月24日	お菓子作り	白玉あんみつを手作りし、歌を唄い、体操をしました。	利用者7名
8月12日	お盆行事	盆団子を手作りし、歌を唄い、体操をしました。	利用者8名
8月27日	納涼祭参加	家族をお招きし、食事をしました。	利用者12名 家族の方2名
8月31日	花火大会	敷地内で手持ち花火をしました。	利用者5名
9月12日	交流会	桜花リビングでさくらんぼの家のご利用者様とお茶やお菓子などで話をしながら交流を深めました。	利用者8名 さくらんぼの家利用者8名
9月26日	季節お菓子作り	おはぎを手作りし、歌を唄い、体操をしました。	利用者11名
9月30日	葡萄狩り	葡萄園休憩所で葡萄を食べお茶を飲みました。	利用者1名
10月16日	お菓子作り	一口カステラを手作りし、歌を唄い、体操をしました。	利用者10名
10月23日	秋季遠足	尺の内公園へ行き、景色を見てお茶会をしました。	利用者2名
10月25日	運動会	桜花リビングで種目に応じた体を動かし、交流をしました。	利用者9名
11月15日	地域交流会	地域の方、ふれあい会さんを招き、銭太鼓やどじょう搦いを披露していただきました。	利用者8名 さくらんぼの

		た。ゲストの方に教わったり一緒に参加するなど楽しくできました。	家利用者 8 名 ふれあい会さん 15 名
11 月 26 日	お菓子作り	どら焼きを手作りし、歌を唄い、体操をしました。	利用者 8 名
12 月 17 日	もちつき	桜花リビングで餅つきをしました。つくのは止めて見学と丸めていただきました。	利用者 6 名 ボランティアさん 3 名来所
12 月 24 日	クリスマス会	プレゼントを渡し、ケーキを食べながら利用者と一緒に歌を唄ったりゲームをしました。	利用者 10 名
1 月 3 日	新春祈願祭	玉木宮司様に 1 年の健康と安全を祈願していただきました。	利用者 11 名
1 月 12 日	とんど祭り	さくらんぼの家と合同で坂本口自治会さん主催のとんど祭りに参加しました。	利用者 11 名
1 月 25 日	新年会	ご家族と一緒に食事を摂りながら、職員の踊りを披露したり、ゲストさんによる余興を披露していただきました。	利用者 13 名 ご家族 5 名
2 月 3 日	節分	節分豆まきの由来と説明し豆まきをしました。歌を唄い、体操をし、ゲームをしました。	利用者 13 名
2 月 25 日	お菓子作り	ホットケーキを手作りし、歌を唄い、体操をしました。	利用者 8 名
3 月 3 日	ひな祭り	ひな壇を飾り、季節を感じました。歌を唄い、お菓子をいただきました。	利用者 9 名
2 月 18 日	季節お菓子作り	おはぎを手作りし、歌を唄い、体操をしました。	利用者 15 名

「小規模多機能のもつ柔軟な支援を行いました」

- ・独居、高齢者世帯など様々な環境にある利用者に対し、小規模多機能が行う柔軟な対応で安全で安心な生活を支援しました。独居の方には通いを中心に配食をして食を提供するとともに、話や買物など状況に応じた訪問サービスを行いました。また、冬季など長期の泊りをしていただき安全を確保しました。高齢者世帯については、夫婦の生活スタイルを重視し、必ずしも同じサービスを提供するのではなく、個々の意向に沿って泊りと訪問を組み合わせながら、お互いが自立できるよう調整しました。

「地域と連携・協働する取り組みを行いました」

- ① 雲南市社会福祉協議会が主催する「認知症サポーター研修会」に講師として参加しました。

日 時：令和2年2月1日（土）
場 所：万場自治会
内 容：劇による認知症対応
講 師：桜花、さくらんぼの家職員2名と雲南社協1名

日 時：令和2年2月13日（木）
場 所：天殿自治会
内 容：事例検討
講 師：木次居宅介護支援事業所職員3名

日 時：令和2年2月22日（土）
場 所：中谷上下自治会
内 容：劇による認知症対応
講 師：木次居宅介護支援事業所職員3名

- ② 地域行事である日登ふるさと祭りに桜花、さくらんぼの家で作成された作品を出品・展示し、利用者2名の方にお出かけいただき他の展示品を見たり、屋台を見学、満喫していただきました。

日 時：令和元年11月17日（金）
場 所：日登公民館

「地域の拠点と運営」

- ・運営推進会議において外部委員の方と情報共有をするとともに、お話ボランティアとの交流で意見を聞き運営に反映させました。
- ・年1度アンケートを実施し、利用者と家族の想いを聞いたところ「満足している」という意見を多くいただきました。
- ・坂本口ふれあい会の方をお招きし、地域との交流を図りました。

「職員の資質向上に取り組みました」

- ・資格取得を積極的に促し、スキルアップを図りました。
- ・法人年間研修計画及び桜花研修計画に基づく感染症研修や接遇研修に参加しました。研修に参加しなかった職員には、後日議事録で周知を図りました。
- ・半年に1回マニュアルを見直しました。
- ・事故発生時、「事故報告書」及び「ヒヤリハット」報告書をもとに全職員に周知するとともに、改善の検討と、リスク委員会にて報告し、再発防止に努めました。
- ・「お客様の声ノート」の内容を桜花会議にて話し合い、改善へ向けて意見を出し合いました
- ・全職員を対象にストレスチェックの実施を促しました。

* 外部研修及び法人研修委員会の主催する研修会への参加

研 修 名
救命救急法講習会
職場の受動喫煙防止策に係る説明会
福祉サービス苦情解決研修
感染症・食中毒予防研修
接遇研修
個人情報・プライバシー保護研修
認知症対応型サービス事業開設者研修
雲南地域GH・小規模部会研修
介護予防研修
感染症研修
キャラバンメイト育成研修
褥瘡予防研修
実践者研修
認知症ケア研修・事故防止研修
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程チームリーダーコース
小規模多機能部会

「人権侵害とプライバシー保護に取り組みました」

- ・スピーチロックの勉強会を行い、それに代わる言葉を検討し実践しました。
- ・職員間で不適切と思われる言葉を指摘し合い、考えてもらえるよう促しました。
- ・個人ファイルやその他記録物などをデータ化できるよう勉強会や個々での取り組みを促しました。データ化できない書類は書棚を施錠し情報が漏れないよう管理しました。